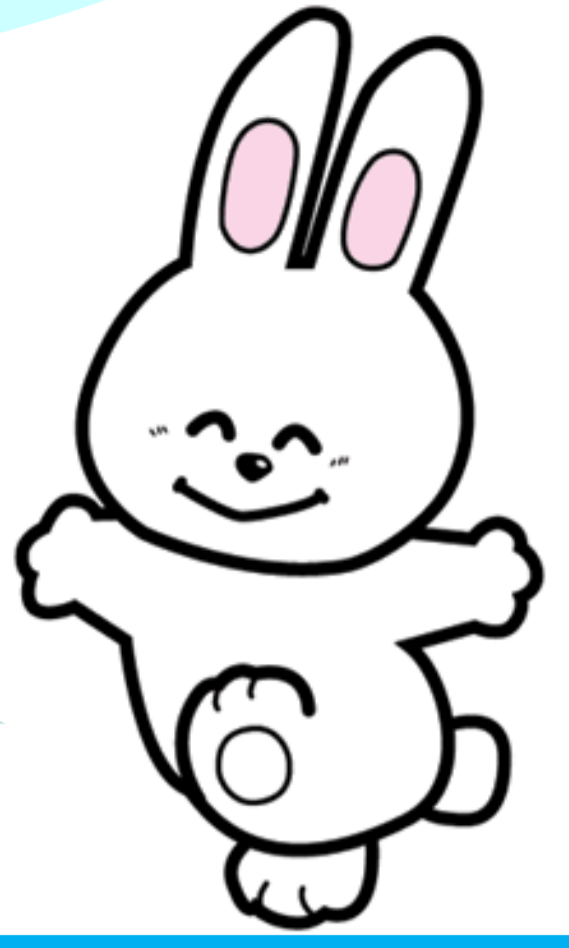




先天性股関節脱臼のスクリーニング方法



スクリーニングに該当した場合は
早急に整形外科を受診してね！



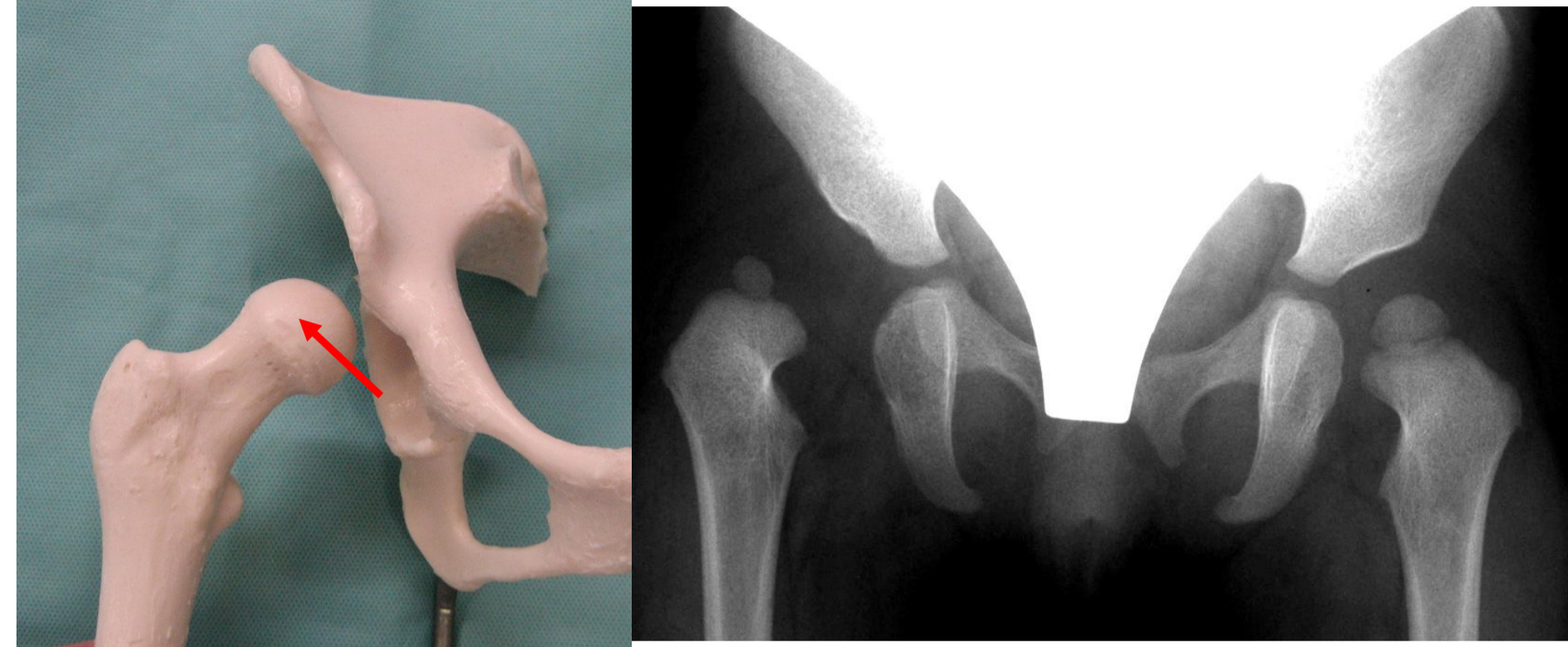
先天性股関節脱臼

先天性股関節脱臼(発育性股関節形成不全)は周産期および出生後の発育過程で生じることがわかってきました。

先天性股関節脱臼の発生率は出産1000人に対して1~3人の割合(0.1~0.3%)で、男女比は1:5~9と女子に多く、また初産児に多い傾向にあります。原因は遺伝的要素が考えられます。

先天性股関節脱臼を放置すると早期に股関節痛(変形性股関節症)が出現し日常生活に支障が生じます。

2013年日本小児整形外科学会では先天性股関節脱臼のスクリーニング方法として『乳児股関節健診の推奨項目と2次検診への紹介』を作成しました。以下にその方法について説明します。



脱臼



脱臼

正常



スクリーニング方法

まず以下の5項目を確認します。

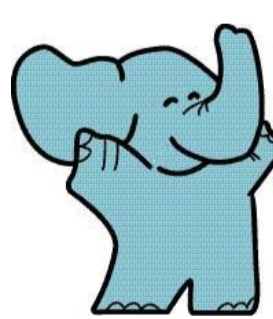
- ① 開排制限(股関節が硬く開きにくい 右の写真 )
- ② 大腿皮膚溝または鼠径皮膚溝の非対称(シワの左右差 右の写真 )
- ③ 家族歴(先天性股関節脱臼)
- ④ 女兒
- ⑤ 骨盤位分娩

次に以下のAまたはBのどちらかに該当すれば整形外科を受診してください。

A. ①を認めれば整形外科を受診する

or

B. ②③④⑤のうち2つ以上認めれば整形外科を受診する



診断

レントゲン・エコーで確認を行います。



治療

当院では、より治療成績が良いと報告されている開排位持続牽引治療を行っています。

スクリーニング方法に該当した場合、早急に整形外科を受診して下さい！



Nagano Children's Hospital